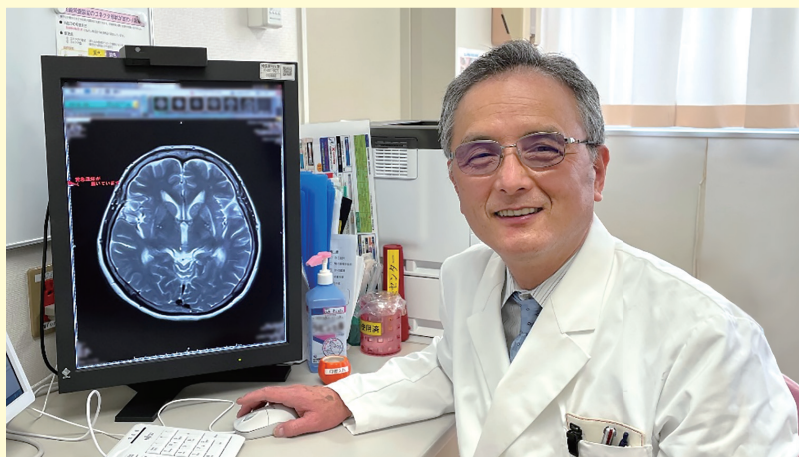


埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース



ごあいさつ

副院長 山元 敏正

地域医療を支えておられる近隣の医療機関の皆様、平素より当院が大変お世話になっております。

2020年9月から大学病院は篠塚病院長の下に新体制となり、約1年が経過しました。まだまだ改善の道半ばですが、患者さんに質の高い医療を提供して、ご紹介くださる医療機関のお役に立てるよう病院一丸となって、様々な分野で改善に取り組んでおります。

今回、その中から3つをご紹介しますと思います。

1つは外来患者サービスの向上です。患者さんの待ち時間短縮に向けて外来予約枠の変更を進めており、またカルナ（オンライン診療・検査予約システム）の更なる充実、初診患者の受付時間の延長を実施しました。2つ目ですが、Hope LifeMark- コンシェルジェというアプリをスマートフォンにインストールすると、患者さんのスマートフォンと病院の電子カルテが連携することで自動再来受付ができて、診察状況のお知らせなどがスマートフォンに届くので、患者さんが中待合室で長い時間待つ必要がなくなりました。このことはまだ十分周知されていないようですので、先生方からも患者紹介の際には是非、お伝えください。3つ目は当院の「急患センターER/中毒センター」は2021年4月より「救急センター」と改称されました。新しく赴任した高平センター長を中心に内科系救急体制がさらに充実しましたので、患者さんが緊急を要する場合には是非、ご紹介ください。

大学病院は近隣の医療機関の皆様方とさらに連携を深めていきたいと考えておりますので、引き続き宜しくお願い致します。

No. 12

2021.9.1

Contents

| | |
|------------------------|---|
| ご紹介 | 2 |
| 脳神経内科で診る特殊な疾患 | |
| 診療科のご紹介 | 3 |
| 消化器内科・肝臓内科 産科 | |
| 医師のご紹介 | 4 |
| 内分泌内科・糖尿病内科 脳神経外科 | |
| 病院長からのエール | |
| 看護部から | 5 |
| カルナ（インターネット予約システム）のご利用 | 6 |
| 提携医療機関から | |
| みやざきクリニック | 6 |
| 小室医院 | 7 |



脳神経内科で診る特殊な疾患のご紹介

今回は脳神経内科で専門的に診療している特殊な疾患についてご紹介いたします。

はじめに特発性後天性全身性無汗症（AIGA）という全身に汗が出なくなる病気で厚生労働省の指定難病です。健康でよく汗をかき成人男性に好発します。多くは秋冬の汗をかきにくい時期に発症し春に気が付きます。運動や暑い環境で手掌・足底以外のほぼ全身に汗が出ません。身体が暖まるときに皮膚がチクチクとする痛みと蕁麻疹が出る場合があります。全身性無汗のため運動や夏の外出ができず、著しく生活が制限されます。ステロイドパルス治療で多くの患者さんは改善する。早期に治療すれば完全寛解できます。この疾患は中里（外来は金曜日）が専門に扱っております。一般にはあまり知られておらず、まれな疾患と思われていましたが、当院では多数の入院治療を行っており、けっしてまれな疾患ではありません。運動しても汗が出ない、原因不明の痛みがある場合にはAIGAの可能性あります。

次の疾患は脳脊髄液減少症（漏出症）です。本症は外傷によるものと原因不明の特発性に別けられます。海外の検討では特発性脳脊髄液減少症は5万人に1人の頻度です。症状は頭痛、悪心、頸部痛の順で多く、光過敏や耳鳴り、難聴などを呈することもあり、片頭痛や緊張型頭痛などと似ています。頭痛は頭を挙上すると生じ、臥位になると改善する（起立性頭痛）ことや、鎮痛薬が効かないという特徴があります。中高生ではサッカー、柔道などスポーツ外傷が原因で外傷性脳脊髄液減少症が生じることも多く、文部科学省からも注意喚起されています。当院では放射線科や核医学科と連携して最新の機器や

撮像法で診断を行い、入院の上、点滴と安静による治療を行います。難治例は麻酔科と連携し治療しています。この疾患は光藤（外来は木曜日）が専門に扱っております。

AIGAも脳脊髄液減少症も適切な治療で患者さんのQOLは著しく改善いたします。ともに特徴的な症状がありますので、まずはこれらの疾患を疑っていただくことが重要です。両疾患とも専門的に扱っている病院は少ないと思われませんが、当科では積極的にお引き受けいたします。疑わしい患者さんは、是非ご紹介いただきたくよろしく願いいたします。

脳神経内科 光藤 尚
外来☎：049-276-2034



特発性後天性無汗症（AIGA）とは



発症しやすい人

運動や仕事でよく汗をかいていた人
若い世代（10～30代）の男性

主な症状

熱中症のような症状
（脱力感、疲労感、めまいなど）
身体が温まると全身がチクチクと痛み、
点状の小丘疹（コリン性蕁麻疹）がでる
身体を冷却すると20～30分で症状が軽快
夏に軽快、冬に増悪する

治療

ステロイドパルス治療が有効

● 消化器内科・肝臓内科

教授 持田 智 (モチダ サトシ) 准教授 今井 幸紀 (イマイ ユキノリ)

高齢化によって消化管出血が増加しています。抗炎症薬による消化性潰瘍からの上部消化管出血、虚血性腸炎、憩室出血による下部消化管出血などです。わが国では、食道胃静脈瘤の出血など高度技術を要する治療に関する技能認定制度がありますが、全国で内視鏡治療と血管造影治療の認定を取得した55名および28名中それぞれ2名と1名が当科に在籍しています。これら医師の指導で、内視鏡のみならず、血管造影を併用した高度な止血術を行っており、増加の一途を辿る高齢者の消化管出血にも対応しています。また、埼玉県で唯一の肝疾患診療連携拠点

病院として、急性肝不全、自己免疫性肝疾患、非代償性肝硬変など他院では対応できない難治性肝疾患の患者さんに最先端の治療を提供しております。その延長線上で急性膵炎などの集中治療を要する消化器疾患にも幅広く対応しています。一方、肝臓の治療では、国際医療センターと連携して週1回のカンファランスを行い、ラジオ波焼灼療法、血管造影治療、化学療法は毛呂で、外科治療と放射線治療は日高で行う分業体制が確立しています。全ての患者さんに画一的でなく、病態に応じた最先端の医療を提供します。



第107回日本消化器病学会総会(2021年4月15~17日, 会長: 持田 智)
: 閉会式後に医局員とともに密を避けて記念撮影

診療部長のご挨拶

当科では消化器内科医が血管造影も行う伝統があり、内視鏡治療と組み合わせた高度な消化管出血止血術が実施可能です。肝臓でも、ラジオ波、血管造影治療、化学療法を一診療科内で実施できる数少ない診療科です。また、研究室での遺伝子研究の成果も診療に応用しています。これら診療科の特徴を利用して、オーダーメイド医療が可能です。

消化器内科・肝臓内科 診療部長 持田 智
外来☎: 049-276-2034

診療科のご紹介

● 産科 教授 亀井 良政 (カメイ ヨシマサ)

当科では、4人の超音波専門医、4人の臨床遺伝専門医が在籍しております。通常の産科救急ばかりではなく、胎児異常についても妊娠初期から後期に至るまで、超音波診断ばかりではなく多様な遺伝学的診断の手法にも精通していると自負しております。妊娠初期のnuchal translucency肥厚の症例の評価では、妊婦とその家族に対して、精密な超音波診断技術を用いて胎児に先天的異常の可能性がどの程度あるのか、またその最終診断のためにどのような遺伝学的検査方法が最適であるのか、時には

1時間以上もかけて懇切丁寧に説明しております。先生方の施設で、何か胎児診断についてお困りのことがあればいつでもご相談ください。勿論、先天性心疾患を始めとして数多くの胎児先天異常の出生前診断も我々経験豊富な超音波専門医が対応しております。

また、無痛分娩については当科でも診療部長が交代した後から医学的適応のある方には対応してきましたが、ここ数年は、無痛分娩にご興味のある妊婦さんが急速に増加して参りましたので、ご希望の妊婦さんにも対応するようにいたしました。どうぞいつでもご相談ください。



周産期カンファレンスの様子

診療部長のご挨拶

このコロナ禍の遷延の中、全国的な出生数の減少にも関わらず、連日のように外来紹介あるいは母体搬送の依頼を頂き、地域の連携施設の先生方の御信頼を頂いているからこそ、感謝申し上げます。本年4月より産婦人科全体の運営責任者を拝命いたしました。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

産科 診療部長 亀井 良政
外来☎: 049-276-1297

● **内分泌内科・糖尿病内科** 教授 一色 政志 (イッシキ マサシ)

2021年4月1日付で埼玉医科大学中央研究施設RI部門教授を拜命いたしました。内分泌・糖尿病内科と兼担となります。6年前に本学へ着任後に内分泌性高血圧に興味を持つ若手の先生たちと原発性アルドステロン症(PA)診療チームを結成しました。その後チーム一丸となり



技量向上に努め、PA診療の難関であった副腎静脈サンプリング(AVS)を月2回のペースで実施できるようになりました。これによりPA病変の局在診断と手術の適否が判定可能となる、埼玉県でも有数のPA診療施設に成長したと自負しております。PAは病勢に個人差はありますが、高血圧患者の約5%程度いるとされます。難治性高血圧、低カリウム血症、副腎腫瘍のある患者ではとくに手術による治療が実施できる片側性病変である可能性が高くなります。適応患者にはAVSを行い泌尿器科と連携して手術を実施しており、診断・治療・術後の経過観察を含めて一連の流れが確立しております。水曜午前にはPA専門外来枠を頂き、診療しておりますので近隣の医療施設の皆様におかれましては該当する患者をご紹介いただければ幸いです。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

医師のご紹介

● **脳神経外科 助教 平田 幸子 (ヒラタ サチコ)**

わたしの行っているてんかん外来には、様々な「てんかん」疑いの患者さんが来られます。

「吐く時とはちょっと違う気持ち悪さなのです」と訴える20代の青年。

「妻が明け方に大声をあげています」夫と共に受診した40代の女性。

「急に暴言を吐くことがあって…」妻にしつしが連れてこられた80代男性。

この方々は皆、てんかんと診断されました。

てんかんの診断は、詳細な問診や、様々な検査を

行っても判断が難しい場合があります。

当院では長時間ビデオ脳波検査により、発作時の症状と脳波から、てんかんの確定診断を行っています。

脳神経外科では、2種類以上の抗てんかん薬を用いても発作が消失しない“薬剤抵抗性てんかん”の患者さんに対して手術治療を行っています。ヘッドギアを使用しないと怪我を繰り返すような小児患者さんでも、脳梁への手術で発作がかなり改善します。発作で日常生活に支障を来す成人患者さんの焦点切除術で、発作が減りお薬も減量できる可能性があります。最近では、ペースメーカーのような植え込み式の「迷走神経刺激装置」も選択肢になります。お困りの患者さんがいらっしゃる先生は遠慮なくご相談いただければ幸いです。



● 病院長からのエール

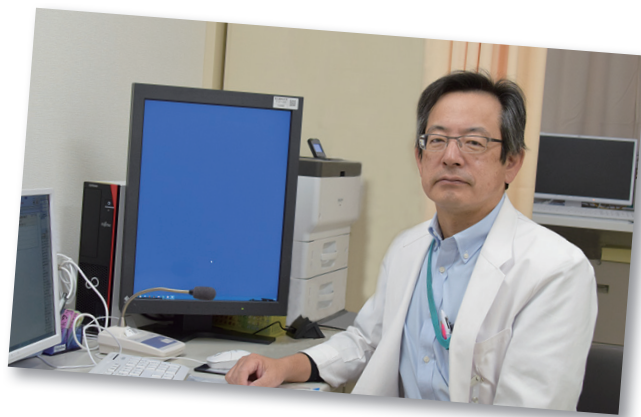
一色政志先生は、6年前に本学に着任後内分泌・糖尿病内科において、内分泌高血圧とくに原発性アルドステロン症の診療に力を注ぎ、高度の診断技術を要する副腎静脈サンプリング検査を数多く実施しております。この検査診断は当院の特徴のひとつでありますので、疑いを含めた症例がございましたら、ご紹介頂きますようお願い致します。

また、一色先生は本年4月からRI部門の教授にも就任され、この部門の研究において今後ますます活躍が期待される先生です。実直でまじめな先生で、患者さんの診療にも定評がります。今後とも宜しくお願い致します。

平田幸子先生は本学卒業後、当院脳神経外科の一員となられましたが、早くからてんかんの診断治療に興味を持ち、外部の研修を経験され現在当院に勤務されています。

当院は以前から県の拠点病院として「てんかんセンター」がありますが、平田先生は、この領域における外科手術の担い手として活躍しています。この

領域の発展は目覚ましいものがあり、今後益々期待できる分野と認識していますので、患者さんのご紹介などどうぞよろしくお願い致します。



● 看護部から

小児アレルギー看護外来より

埼玉医科大学病院こどもセンターでは、各専門グループの医師が一般診療（午前）と専門外来（午前・午後）にて小児の様々な疾患を診療しています。

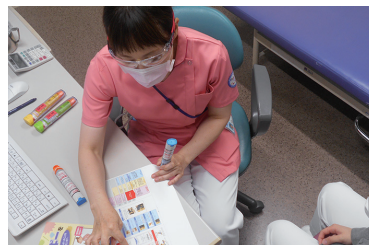
当院はアレルギーセンターを有し、埼玉県アレルギー疾患医療拠点病院に指定され中核病院としての役割を担っています。その包括的治療の一環として2020年6月より小児アレルギー看護外来を開設し「小児アレルギーエデュケーター（PAE）」の資格を有する看護師2名が担当しています。この看護外来



スキンケア指導の様子

で、2020年度は延べ200名の方に支援しました。小児アレルギー看護外来では、アトピー性皮膚炎における病態の説明から、スキンケア指導として身体の洗い方や軟膏の塗布方法、使用量など具体的にお話しし、患者さんが実践するためのイメージが持てるような説明を心

掛けています。その他にもアナフィラキシー補助治療薬（エピペン）や、気管支喘息の吸入薬の使用方法的説明等、アレルギー治療を継続するための支援を行っています。また、食物アレルギーの方への支援においては、PAE資格を有する管理栄養士との



アレルギー治療の指導風景

連携も行っています。

小児アレルギー看護外来は、毎週火曜日に行っています。アレルギー診療の初診外来も同様に行っていますので、支援が必要な患者さんがいらっしゃいましたらアレルギー診療初診外来にご紹介ください。

小児アレルギーエデュケーター
 ・アレルギー疾患療養指導士 大塚 砂織
 小児アレルギーエデュケーター 山崎 美穂

カルナ（インターネット予約システム）の利用

提携医療機関・登録医制度について

埼玉医科大病院と地域の医療機関とで、患者に一貫性のある適切な医療を提供するために相互が協力・緊密な医療連携を図ります。

提携医療機関・登録医、カルナシステム利用について

1. 「提携医療機関・登録医申請届」を提出してください。

▶カルナシステムを利用されたい方は、申請届を提出する際に申し出てください。

申請届をインターネットよりダウンロード

<http://www.saitama-med.ac.jp/hospital/cooperate/system.html>

プリントアウト

必要事項を記入

カルナ利用をご希望の方

郵送または FAX

当院より登録証を送付

※カルナ利用希望の方のみ別途書類を送付いたします。

提携医療機関・登録医 申請届

令和 年 月 日

埼玉医科大学病院

病院長 篠塚 望 殿

私は、埼玉医科大学病院 病診連携システム（提携医療機関・登録医制度）の主旨に賛同し、登録申請いたします。

登録医師名 1 医療機関1名（理事長・院長・所長等を明記）

医療機関名

診療科目名

郵便番号

医療機関所在地

電話番号

FAX 番号

カルナ希望 あり なし（どちらかに○をつけてください）

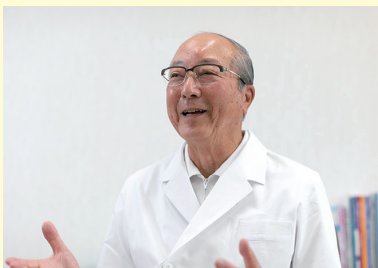
提携医療機関から

医療法人娛生会 みやざきクリニック(小川町)

当院は東秩父村の宿場医として医業を始め、先代が小川町に転院し現在 10 代目院長として産婦人科を開業しております。現在は小児科、内科を加えて、法人内では介護老人保健施設みどりの杜、デイサービス、小規模多機能ホームももとせの3つの介護施設や地域交流スペースみもりを併設し医療福祉を提供しております。

産婦人科としては、不妊症、更年期障害、月経異常などを中心に行っております。やや遠方な場所である当クリニックでも、外来で相談をしながら分娩や手術などが必要な方をカルナシステムによりご紹介から受診のサポート、その後の連携までスムーズに行う事が出来、大変心強く感じております。

院長：宮崎 通泰



医療機関情報

診療科目：産婦人科 / 小児科 / 内科

診療時間：産婦人科

午前 9:00 ~ 12:00

午後 16:00 ~ 18:00

小児科（火・金曜日）

午前 9:00 ~ 12:00

内科（月曜日 要予約）

午前 9:00 ~ 12:00

午後 16:00 ~ 18:00

休診日：木曜日・日曜日・祝日

ホームページ：https://www.mhp.jp



2-1. 患者紹介（外来診療予約）について

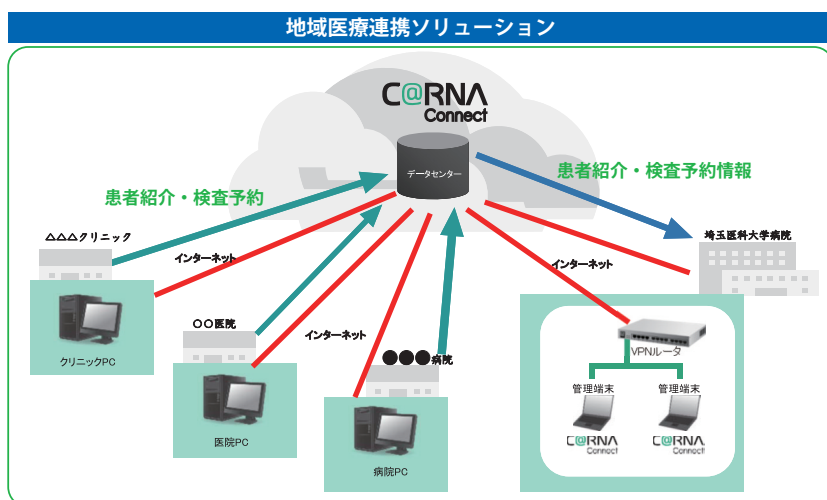
- ① カルナシステムでは、指定の予約枠に入力していただくことで、予約が取得できます。（7月より「眼科」を開始しました。）
- ② 患者さんは医務課での初診受付は必要なく、直接診療科外来で受け付け、お待ちいただけます。

2-2. 特定の検査の依頼について

- ▶カルナでは、CT 検査、MRI 検査、アイソトープ検査、骨シンチ、心エコー検査、腹部エコー検査、骨塩定量検査などの検査もご利用できます。
- 検査終了後すみやかに、専門医の読影報告書を送付いたします。

2-3. 受診報告について

- ▶紹介患者さんが受診後には、報告書を送付させていただきます。

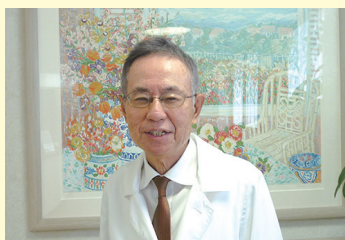


| 新規カルナ登録医療機関 (R3.4 ~ R3.6) | | | |
|---------------------------|------------|-----|--------|
| こもりクリニック | 栃木県宇都宮市 | 院長 | 小森 隆之 |
| 高萩さくら眼科 | 埼玉県日高市 | 理事長 | 小島 照夫 |
| 北毛病院 | 群馬県渋川市 | 院長 | 橋本 真也 |
| 飛田耳鼻咽喉科 | 埼玉県新座市 | 院長 | 飛田 正 |
| 公立館林厚生病院 | 群馬県館林市 | 院長 | 新井 昌史 |
| 鈴木内科眼科クリニック | 埼玉県秩父郡小鹿野町 | 院長 | 鈴木 成雄 |
| 鶴ヶ島眼科クリニック | 埼玉県川越市 | 院長 | 門田 裕子 |
| たかの眼科 | 埼玉県坂戸市 | 院長 | 高野 隆行 |
| おのづか在宅クリニック | 埼玉県鶴ヶ島市 | 院長 | 小野塚 陽春 |

医療法人社団 小室医院(入間市)

当院は、地域に密着した産婦人科医院として現在地（入間市鍵山）に開業以来すでに90年近くの歴史を数えます。お陰様で長い間の実績に基づく信頼を頂戴して、「女性のからだに現れるさまざまなトラブル解決のお手伝いをするのが産婦人科医の役目」をモットーに日々診療に努めております。

カルナインターネットシステムは早期から活用させて頂いていますが、ご要望に沿った受診予約をその場で容易に確認できるため、患者様も満足されておられます。忙しい時間帯に連携室に連絡を入れる必要もなく、その上、操作も簡便なためとても優れたシステムとスタッフ一同感謝しています。



理事長：小室 順義

医療機関情報

診療科目：婦人科 / 産科（分娩を除く）
 診療時間：水曜日以外の月曜日～金曜日
 午前 9:00 ~ 11:30
 午後 14:00 ~ 17:30
 水曜日・土曜日
 9:00 ~ 11:30

休診日：日曜日・祝日

ホームページ：https://www.komuroclinic.or.jp



埼玉医科大学 建学の理念

- 第1. 生命への深い愛情と理解と奉仕に生きる
すぐれた実地臨床医家の育成
- 第2. 自らが考え、求め、努め、以て自らの成長
を主体的に開展し得る人間の育成
- 第3. 師弟同行の学風の育成

埼玉医科大学の期待する医療人像

- 高い倫理観と人間性の涵養
- 国際水準の医学・医療の実践
- 社会的視点に立った調和と協力

埼玉医科大学病院の基本理念

当院は、すべての病める人に、満足度の高い医療を行うよう努めます。

病院の基本方針

1. すべての病める人々にまごころをもって臨みます。
2. 安心して質の高い医療を実践します。
3. まわりの医療機関と協力し合います。
4. 高い技能を持つ心豊かな人材を育成します。
5. より幸せとなる医療を求めた研究を推進します。

患者さんの権利

当院は、すべての患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. ひとりひとりが大切にされる権利
2. 安心して質の高い医療を受ける権利
3. ご自分の希望を述べる権利
4. 納得できるまで説明を聞く権利
5. 医療内容をご自分で決める権利
6. プライバシーが守られる権利

小児患者さんの権利

当院は、すべての小児の患者さんには、以下の権利があるものと考えます。

これらを尊重した医療を行うことをめざします。

1. こどもが最善の治療を受けて生きる権利
2. こどもが暴力から守られる権利
3. こどもが能力を十分に伸ばせるような医療を受ける権利
4. こどもが自分の診療について自由に意見を述べる権利

連携医療機関からの各種問い合わせ

救急センター : 049-276-1199
地域医療連携室 (カルナ・FAX 紹介) : 049-276-1876
入退院・患者支援室 : 049-276-1484

医療福祉相談室 (退院調整) : 049-276-2119
セカンドオピニオン受付 : 049-276-1121



埼玉医科大学病院 地域医療連携ニュース (12号)

発行 : 埼玉医科大学病院
発行責任者 : 篠塚 望
編集 : 埼玉医科大学病院広報戦略委員会・地域医療連携室
編集責任者 : 池園 哲郎・中里 良彦
電話 : 049-276-1876 地域医療連携室
住所 : 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38
発行日 : 2021年9月1日

※掲載している写真等は、関係者の同意を得ています。